

# 聞いて！見て！触って！ 看取りのシミュレーションと身近な医療機器

2026年5月21日(木)・22日(金)、姫路メディカルシミュレーションセンターひめ mariaにて上記研修会を開催しました。看取りの経過やその支援についての講演後、シミュレーション人形や医療機器を実際に“聞いて 見て 触って”体験をしていただきました。2日間で計44名の医療・介護職の方々にご参加いただきました。



講演では、事例も取り入れながら、看取りの経過と支援について分かりやすくご講演いただきました。

## 【主な内容】

- \* 看取り期の一般的な身体的変化や兆候を理解し、支援しましょう
- \* 積極的な声かけやスキンシップが大切です
- \* “いつもと違う”といった気付きなど些細なことでも、ぜひ訪問看護へご連絡ください。チームで情報共有し、連携することで、よりよい支援につながります
- \* 利用者への支援はもちろんですが、家族への支援は重要です



講師  
姫路市医師会訪問看護ステーション  
管理者  
よしはら ひろみ  
吉原 弘美 氏

シミュレーション人形や医療機器を、五感を使って体験をしていただきました  
各ブースでは質疑応答が活発に行われていました！

人工肛門(ストマ装具)



ストマ関連物品も  
実際に触って確認



膀胱留置カテーテル、胃ろう（経管栄養）を、体内での構造を確認、吸引器も触って実感

人工呼吸器・在宅酸素

看取りのシミュレーション



胃ろう・吸引



## 【参加者アンケート回答より（一部抜粋）】

- ・とても丁寧でわかりやすい講演で、看取りについて深く学ぶことができたので、今後に活かしたいと思う
- ・少人数でゆっくりと体験ブースを回ることができたので良かった
- ・“いつもと違う”という違和感は重要な情報であり、情報共有する大切さを再確認できたので、とてもよかった
- ・各体験ブースで説明を聞いたり、見たり、実際に触れることで、機器の機能や構造、身体の徴候を深く知ることができた
- ・利用者家族の不安な気持ちや何かしてあげたい等の思いに、寄り添うことができそうと感じた
- ・看取り期の知識が得られ、今後、利用者や家族への声かけ一つでも自信をもって行うことができると感じた